





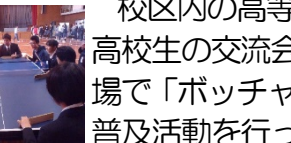
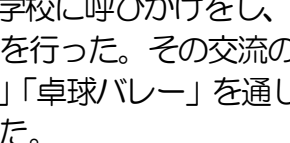
平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立南山城支援学校 】

1 実践テーマ	【 II・III・V 】
2 実施対象者	府内特別支援学校小学部・中学部・高等部児童生徒 201 名 地域の小学生 66 名・府内高等学校生徒 65 名・保護者 43 名 役場職員 3 名・企業（トヨタカローラ京都） 5 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ボッチャ交流大会、高校生の交流会、スポーツと文化を楽しむ日：卓球バレー） (2) 地域における活動 ① イベント名（地域の小学校へのボッチャ広報活動） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・ボッチャ交流大会等を通し、パラリンピックへの興味、関心を高める。 ・地域との交流及び共同学習、また、自分たち（生徒自身）が地域に出向き、「ボッチャ」や「卓球バレー」を共に競技することで「地域とのつながり」「人とのつながり」を深め、障害者スポーツの普及を目指す。また、新しいスポーツを知り、仲間と楽しめる。
5 取組内容	(1) 交流や共同学習の場での「ボッチャ」「卓球バレー」の活用 ①平成30年6月30日（土）ボッチャ交流大会 in 南山城 府内支援学校の中等部・高等部の生徒を中心に、本校を会場として交流大会を行った。府内支援学校 5 校 17 チームが参加。  ②平成30年11月10日（土） 高校生の交流会 校区内の高等学校に呼びかけをし、高校生の交流会を行った。その交流の場で「ボッチャ」「卓球バレー」を通し、普及活動を行った。  ③平成30年11月28日（水）スポーツ・文化を楽しむ日 本校で設定している「スポーツと文化を楽しむ日」に関わって、地域の卓球バレーチームを招き、生涯スポーツの楽しみ方等に    

ついて実践を交えた交流試合を行った。

④平成30年6月8日～7月13日 スローイングビンゴ
保健体育の授業にて、週1回「スローイングビンゴ」を行う。

ア 6/8～6/22 投球練習

<力を調整し、サンドレッドを投げられる>

- ・手本を見る
- ・枠上にのるように投げる（近距離、中距離、長距離の順番に投げるように枠の距離を調整）

イ 6/28～7/13 ゲームを楽しむ

<ルールを理解し、ゲームが出来る>

- ・投球練習後、クラス対抗ゲームを行う。（1クラス2ゲーム）



(2) 地域への普及

①平成31年1月15日

地域の小学校からの依頼を受け、小学校に出向いた。生徒たちがルールを少しわかりやすくしながら児童へ説明し、交流試合を通し「ポッチャ」の普及を行った。



6 主な成果

(1) ポッチャ交流大会、高校生の交流会について

- ・ポッチャ交流大会は、55人以上の支援学校生徒が参加した。それぞれの練習の成果を発揮する場となり、生徒同士が「ポッチャ」とおして、切磋琢磨する様子が見られた。また、他校を応援したり、積極的に話しかけるなどの姿も見受けられた。
- ・高校生の交流会では、「ポッチャ」や「卓球バレー」を行った。ルール等がわかりやすく、高校生にとっても取り組みやすいスポーツである。チーム対戦であったり、本校の生徒がルール等を説明することで、地域の高校生と本校の生徒とのコミュニケーションの場にもなった。同じチームになった生徒たち同士が力を合わせて、スポーツをとおしての交流を深め、普及活動にもつなげられた。

(事後アンケート実施結果)

- ・ポッチャの奥深さや、チーム内で協力し相手を思いやる気持ちなどを学べた。また、楽しさを知ることによって次への意欲につながった。

(2) 卓球バレーチームとの交流

- ・地域の聴覚障害者の卓球バレーチームを招き、正式なルールや、試合に取り組む姿勢など学べた。実際に卓球バレーでの交流試合をとおし、刺激にもなり、生涯スポーツへの関心及び、障害者や、高齢者への理解にもつなげられた。

(3) 地域への普及について

- ・「ポッチャ」の交流をとおして、生徒がルールや、チームワークの大切さを教えることは貴重な体験となった。「ポッチャ」について知ってもらう機会となり、自己肯定感の向上につながった。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1)「ボッチャ交流大会、高校生の交流会」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ボッチャ」に関しては特別支援学校での普及は進んで来ているが、地域の学校などではまだまだ十分ではない。道具の普及が進んでいないため、事前に希望される団体やイベント活動などには、貸し出しを行った。ボッチャの指導依頼を受けた時など、生徒に参加希望調査を行い、積極的な活動を促した。
8主な課題等	<p>(1) ボッチャ交流大会において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的にも障害のある生徒が参加することを考えると、保健室の設備面、看護師の参加など特別支援学校での開催が必須である。しかし、参加者が増加、体育館の広さ、空調設備などの環境面で対応が難しくなっている。継続して行うのであれば、どのような形で開催するのかを再度検討していくことが必要である。 <p>(2) 地域への普及について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント的なものではなく、様々なスポーツの普及活動（出前授業も含め）をとおり、日常的に地域の中で交流できる場を考えれば、本当の意味での普及につながるように思われる。
9来年度以降の実施予定	<p>(1) ボッチャ交流大会について</p> <p>3回目の開催であり、今後も、取組を継続していくことを考えているが、参加人数などの関係から、開催方法に関しては未定である。</p> <p>(2) 地域への普及について</p> <p>道具の貸し出しの継続もちろんではあるが、出前授業のような取組を積極的に継続して行う。</p>